

【第2号議案】

平成28年度（第7期）倉橋部町グリーンファーム活動基本方針ならびに予算について（案）

《活動基本方針》

平成19年2月に『倉橋部町の農地は倉橋部町で守る!』を合言葉に集落一農場方式による倉橋部町グリーンファームを設立、その後平成22年11月には法人化（農事組合法人）を経て本年で9年目を迎え、来年度には節目の10年目を迎えるに至りました。

その間激しく揺れ動く農業情勢の中、特に国からの補助金等の獲得には（農地集積円滑化事業：358万円、大豆・麦等生産体制緊急整備事業「リース事業」：275万円、地域集積協力金：720万）（合計）1,353万円と大きな成果を収めておりますが、最も特筆すべき点は我々農家がこの間（約10年）農機具等への投資を完全に排除できた事とともに町内一人の脱落者も無く当町の農地を完全に守りきれた事が挙げられます。

そうした中、昨年10月6日には今後の日本の針路（選択）において取り返しのつかない汚点と将来に対し多くの課題と問題を抱えたTPP（環太平洋経済戦略的連携協定）が妥結しました。今後のこの影響が徐々ではありますが必ずマイナスとして出てくるものと思われ、当組合も今まで通りの営農および経営等を続けていけば、必ず行き詰まるものと思われます。

そこで、今年度計画いたしております新格納庫による独自の乾燥調整、さらに大型飯用米保冷库(180袋格納)ならびに最新の高性能精米機(自動石抜き)の設置は、今後米の地産地消による近隣団地への直売の拡大の為の「必要不可欠な道具」と位置付け、整備致したく考えております。

次に、平成30年度からは米政策の大きな見直し(俗に「30年問題」と言われている。)として、転作面積の割当等を国（行政）から民間（JA等集荷業者）による自主的な需給調整へと大転換が実施されます。平成30年度からの米政策の見直しにおける問題として大きく次の2点が挙げられます。

- ① 構造的な米余りの中、転作等による米の需給調整を国からJA等集荷

〔倉橋部町の農地は倉橋部町で守る!〕 〔次世代の為に新しい農業を構築しよう!〕

業者への移管（全国調整を行うべき全中解体も大きな問題!!）が果たしてスムーズに円滑に行えるのか。行えなく米余り（ダブツキが顕著になった場合、極端な米価の下落が想定される。誰も止められない。

②スムーズな移行の為に”カギ”として、少なくとも現行の転作に伴う補助金（当組合：今日迄平均1千万円／年）が、国の財政状況（台所）が大赤字の中、果たして支出されるのか。（出来るのか。）

（参考資料）JA 出資法人連絡協議会総会資料 【一部抜粋】 2016. 01, 29

＜TPP 交渉の大筋合意の主な内容＞

イ. 小麦

米国、カナダ、豪州に無関税の国別輸入枠を新設。当初は19.2万t、7年目以降は25.3万t。関税は維持。代わりに国が輸入して製粉会社に転売する時に上乗せする「輸入差益」を発行から9年目までに45%削減。

（注）「輸入差益」は年間800億円あり、現行経営所得安定対策（転作奨励金等）の財源となっている。

現行の転作による米の需給調整は来年（H29）で終了します。残された時間は僅かではありますが、全組合員臆せず真剣に新たに歩む道を探し出すべく、前進しようではありませんか。

《スローガン》

◎**倉橋部町グリーンファームは、農業の協働化を通して効率的な農業経営の実現と、組合員共働の利益の増進を図る。**

◎**倉橋部町グリーンファームは、協業集落型経営体（集落一農場）のもと、過去より引き継がれたこの倉橋部町の実田を守り、今後新しい世代への引き継ぎを図る。**

総務部

- 部門別(水稻、小麦、大豆)損益の把握できる資料の作成を行う。
- 組合飯用米代金の増益を目的として、近隣団地等への大幅な販売拡大に取り組む。
- 米の販売における総合管理を行う。
- 近隣の農事組合法人との連携強化の働きかけを行う。
- 労務費の作業別・班別分析を行う。

営農部

- 組合員全員による相互理解のもと、自主性や協力性を高めながら、やりがいのある営農活動を進める。
- 組織の充実と活性化により、担当役員を中心とした計画的な営農作業の推進の取り組みを図る。
- 新たな農政の展開と併せ、集落ぐるみで農地を守る取り組みと農地の総合的な利用を図り、生産調整の達成や環境こだわり米の栽培、小麦あと大豆の高度利用等へ積極的に取り組む。
- これまでの実績や反省をふまえつつ、作業に応じた協業化と専門性を生かし、農作業の効率化と生産性の向上を図りより良い品質確保と収穫量のアップにより売れる米づくりをめざす。
- 環境保全活動に留意した濁水の流出防止や減農薬、有機肥料の施肥など、環境にやさしい農業の推進に取り組む。
- 自前の育苗施設、乾燥調整施設、倉庫等の施設の建設を推進する

農機具・施設管理部

○機械操作・作業等は安全第一で行うことが最も重要。このため、これまでと同様、引き続き作業員全員への周知徹底と自覚を促し、いかなる作業も無事故で終わることができるよう、常に作業マニュアルの再確認とミーティング等により安全作業を徹底し、仮にも業務上過失とならないよう事故防止に努める。

また、すべての機械器具、施設は協働利用、共同の財産であることから、特に機械は適切な作業手順により、機械の特性やメカニズム等を熟知し、機械の延命遵守と合わせて安全を期すこと、および燃料関係についても慎重かつ適正な取り扱いを行なうものとする。

これらは作業の原理・原則であり、オペレーター、作業員の共通課題としての浸透を図る。

○使用する農機具全般にわたり、支障なく安全に作業ができるよう保守、点検、整備、管理に努め、不都合な箇所については随時修理を行なう。

○農作業が円滑に行えるよう、水稻収穫後および代掻き前には農業施設、設備、工作物の補修を定期的に行なう。

○格納庫、乾燥調整施設の新設については、整備検討委員会と協調しながら推進を図る。

〔倉橋部町の農地は倉橋部町で守る!〕 〔次世代の為に新しい農業を構築しよう!〕

農機具・施設管理部

当面の予定と課題（案）

補修関係 平成28年の代掻きまでに補修（3月に予定）

暗渠パイプ、畦畔ブロック、取水マス、排水マス等の点検補修、土手、圃場出入り口の補修

農機関係 ブロードキャスターの購入 29万円

1トントラックの更新 ⇒ できれば1.5トン中古を検討

補助金がらみ

コンバイン4条または5条

乗用管理機

格納庫と乾燥機

〔倉橋部町の農地は倉橋部町で守る!〕 〔次世代の為に新しい農業を構築しよう!〕

平成28年産 水稻苗箱枚数、育苗管理

(敬称略、順不同)

品種 (面積)	通 常 米				品種 (面積)	環境こだわり米			
	必要枚数	育苗農家	苗区分	育苗数		必要枚数	育苗農家	苗区分	育苗数
	19枚/反					19枚/反			
キヌヒカリ (244. 5a)	465	竹岡政治	発芽苗	120	コシヒカリ (368. 9a)	708	村地忠治郎	発芽苗	308
		村地 孝	発芽苗	250			村地 純子	発芽苗	300
							竹岡 政治	発芽苗	100
		JA	硬化苗	95					
		小計					465	小計	
遅植合計	1,173								
品種 (面積)	通 常 米				品種 (面積)	環境こだわり米			
	必要枚数	育苗農家	苗区分	育苗数		必要枚数	育苗農家	苗区分	育苗数
	19枚/反					20枚/反			
日本晴 (154. 0a)	295	J A	硬化苗	295	みずかがみ (175. 8a)	22枚/反	J A	硬化苗	386
						386			
					秋の詩 (337. 4a)	678	J A	硬化苗	678
早植合計	1,359								
全品種合計	2,532								
備考	○苗の申し込み、苗代の支払いは、グリーンファームで一括行ないます。 ○苗の引き取りは、各育苗農家をお願いします。(藤田産業まで。東近江市上羽田町1445) ○育苗農家への支払いは、藤田産業の硬化苗単価－発芽苗単価×枚数を支払います。 ○苗箱の洗浄は、育苗農家分とJA 分すべてをグリーンファームにて処理をします。								

平成28年度 倉橋部町グリーンファーム・主な営農作業(案)

(敬称略、順不同)

平成28年2月21日

月	作業内容	作業時期	作業担当者	摘要
1	大豆後廻りスキ、平面耕起	1月		1月中
3	肥料、農薬等の配送受	3月上旬	営農部	数量立会い
	小麦の穂肥の施肥	3月中旬～下旬		
	中割作業	3月中旬		ディスクロータリーによる
	畔塗り	3月下旬		中割作業後
4	平面整地作業	4月上旬		2WAYロータリーによる
	発芽苗引取り	4月下旬	別途育苗農家	
	土手等の除草	4月下旬	各班割り当て田	
	水入れ	4月下旬	各班 水利担当	暗渠キャップ、尻水戸止水板
	代掻き	4月下旬～ 5月中旬	別途アンケート方式 による作業割 当	田植え予定
	代掻き			日本晴、秋の詩、みずかがみ (4/29～)
5	苗引き取り、田植			コシヒカリ、キヌヒカリ (5/10～)
	畦畔シート入れ	田植後	各班割り当て田	必要に応じて実施
	小麦赤カビ防除	5月上旬	無人へりによる散布	病害虫防除協議会に依頼
	小麦実肥の施肥	5月上旬	別途割り当て	
	ほ場内除草剤の散布	田植後	別途割り当て	中期剤散布、後期剤散布
	土手等の除草	5月下旬	各班割り当て田	
6	小麦収穫作業	6月中旬	別途アンケート方式 による作業割当	
	麦わら焼却	小麦刈取後	別途割り当て	
	弾丸暗渠作業	小麦刈取後	別途割り当て	大豆作付予定圃場
	大豆播種作業	小麦刈取後適期	別途アンケート方式 による作業割当	整地～播種～中耕～防除 (中耕、防除は数回)
	水稻中干し作業	6月中旬～下旬	各班割り当て田	溝切り機による作業
	土手等の除草	6月下旬	各班割り当て田	
7	穂肥の施肥	7月適期	別途割り当て	みずかがみ、コシヒカリ、秋の 詩
	大豆中耕作業	7月中旬～	別途割り当て	

〔倉橋部町の農地は倉橋部町で守る!〕 〔次世代の為に新しい農業を構築しよう!〕

	土手等の除草	7月中旬～下旬	各班割り当て田	カメ虫対策
8	水稲防除	8月上旬	無人へりによる散布	病害虫防除協議会に依頼
	大豆防除、除草剤散布	8月中旬	別途割り当て、全員対象	
	土手等の除草	8月上旬～中旬	各班割り当て田	カメ虫対策
9	土手等の除草	収穫前適期	各班割り当て田	
	大豆防除	9月上旬	無人へりによる散布	病害虫防除協議会に依頼
	水管理給水止め作業	収穫前適期	水管理担当者	暗渠キャップ、止水板、波板の回収・清掃
	水稲収穫作業	8月下旬～9月下旬	別途アンケート方式による作業割当	
	飯米乾燥、調整、引渡し	8月下旬～9月下旬	組合員全員	
10	弾丸暗渠作業	10月上旬	別途オペレーター割当	転作予定圃場
	転作田スジ付け、回りスキ	10月適期	別途オペレーター割当	
	回りスキ後の排水作業	10月適期	各班割り当て田	
	小麦の播種作業	10月下旬	別途アンケート方式による作業割当	
	土手等の除草	10月下旬	各班割り当て田	
11	土改肥料の施肥	11月上旬	営農部	次年度環境こだわり作付圃場
	耕起作業	11月中旬～	別途オペレーター割当	ディスクロータリーによる
	土手等の除草	11月下旬	各班割り当て田	
12	大豆収穫作業	12月上旬	別途アンケート方式による作業割当	
	小麦の追肥作業	12月中旬～下旬		
	大豆収穫作業後の圃場整地	12月中旬～	別途オペレーター割当	廻りスキ、平面耕起（2WAY）

上記作業計画は年間の概要であり、実作業にあたっては農地の状況等を判断しながら、変更及び修正していきます。余裕を持って作業をお願いします。

ほ場周囲の草刈は、前年度と同様に班別で対応するものとし、方法については班に一任します。

（自走式草刈機の使用は、倉庫前のカレンダーに使用予定日を記入して下さい）

草刈時期は組合から指示し、労務費は一元管理、除草剤、混合油は組合で準備、その他の詳細はその都度連絡します。

作業は、単独オペレータ作業以外は複数人数での作業をお願いします。作業後の確認もお願いします。

作業は、常に『安全第一』で実施して下さい。
今年度の作業も無事故で終わるように組合員の自覚と協力をお願いします。

〔倉橋部町の農地は倉橋部町で守る!〕 〔次世代の為に新しい農業を構築しよう!〕

計画損益計算書(案)

自 平成28年 1月 1日

至 平成28年12月31日

	コード	勘定科目	金 額	割合 (%)	主な内容
収入の部 (A)	4111	農産物売上高(水稻)	13,010,000円	50.4%	H28年産米JA概算払い・調整払い、H26年産精算金
	4111	農産物売上高(小麦)	564,000円	2.2%	H28年産仮渡金、H26年産精算金
	4111	農産物売上高(大豆)	2,182,000円	8.5%	H28年産仮渡金、H26年産精算金
	4112	作業受託収入	538,000円	2.1%	出夫不可申請分、出夫不足による徴求分等
	7111	受取利息割引料	1,000円	0.0%	預金利息等
	7114	受取配当金	300円	0.0%	JAグリーン近江出資配当金
	7118	雑収入	9,500,000円	36.8%	経営所得経営安定対策制度に係る奨励、助成、補助金等
		(合計)	25,795,300円	100.0%	
費用の部 (B)	5412	種苗費	2,066,000円	8.2%	水稻1,427,000円、小麦200,000円、大豆160,000円
	5414	肥料費	2,144,000円	8.5%	水稻1,392,000円、小麦350,000円、大豆450,000円
	5414	農薬費	1,859,000円	7.4%	水稻1,1312,000円、小麦400,000円、大豆400,000円
	5452	動力燃料費	333,000円	1.3%	軽油、ガソリン・混合油、オイル代等
	5455	減価償却費	3,500,000円	13.9%	農機具等の償却費用
	5456	修繕費	1,500,000円	6.0%	農機具に対する保守修繕費
	5457	租税公課	20,000円	0.1%	トラック車検重量税・印紙税、自動車税等
	5458	地代、賃借料	3,700,258円	14.7%	地代(1.8万/反)3,641,184円、レンタカー代
	5459	共済・保険料	596,000円	2.4%	農業共済(水稻、小麦、大豆)の掛金、傷害共済の掛金
	5461	消耗品費	96,000円	0.4%	
	5462	水利費	928,600円	3.7%	西部土地改良水利費
	5463	施設利用料	2,500,000円	10.0%	水稻1,800,000円、小麦400,000円、大豆300,000円
	5467	雑費	100,000円	0.4%	
	6114	包装材料費	200,000円	0.8%	米紙袋代
	6211	役員報酬	594,000円	2.4%	理事報酬
	6226	厚生費	50,000円	0.2%	総会費用等
	6214	減価償却費	0円	0.0%	工具・器具・備品等の償却費用
	6217	事務用消耗品費	70,000円	0.3%	事務用品等
	6221	租税公課	15,000円	0.1%	利息の税金等
	6223	接待交際費	20,000円	0.1%	
	6252	備品・消耗品費	10,000円	0.0%	
	6228	諸会費	100,000円	0.4%	JAグリーン近江賦課金、JA労働保険料、自治会負担金
	6231	雑費	450,000円	1.8%	吉永会計事務所顧問料他
		賃金	176,000円	0.7%	組合員以外の労務費
	7511	支払利息	0円	0.0%	JA借入金に対する支払利息
		労務費他(従事分量配当)	4,004,000円	15.9%	労務費、水利手当金、班長手当、特別出夫、育苗代金
		法人税、住民税	72,200円	0.3%	県民税、市民税の均等割負担分
		(合計)	25,104,058円	100.0%	
収支利益金 ((A)-(B))			691,242円		